

## 平成30年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果 ・コスト削減の可能性 ・代替案の検討等	今後の事業の見通し		
					採択年 \	総事業費	進捗率				事業進捗内容	
						工事費	進捗率					
						目標年 用地費	進捗率					
治山事業	2	明神滝	御浜町	②	【全体事業概要】 アンカー工44本 排水ボーリング工60本 排土工15,638m <sup>3</sup> 鉄筋挿入工876本 法枠工2,229m <sup>2</sup> 谷止工1基  事業費875百万円	H20	462	53%	【施工済み】 アンカー工24本 排水ボーリング工60本 排土工6,297m <sup>3</sup> 鉄筋挿入工633本 法枠工1,470m <sup>2</sup> 谷止工1基	近年異常気象による災害が日本各地で頻発していることもあり、地域住民の降雨災害に関する危機管理意識が高まっている。また、当地すべりブロック内を通る熊野古道の安全な利用を望む声も多く、当事業の早期完成が強く望まれている。	【費用対効果】 総便益(B) 993百万円 総費用(C) 874百万円 分析結果(B/C) 1.14  【コスト削減の可能性】 実施年度ごとに経済比較に基づく工法採用や材料選定を実施し、コスト削減に努めていく。	地下水位を下げるための排水ボーリング工についてはすでに完了し、その結果平時における地すべりの滑動は停止した(安全率1.00以上)。現在は安全率を1.10まで上げるべく、アンカー工・排土工に着手している。
					\	462	53%					
					H36	-	-					

注:再評価理由

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- ②事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- ③再評価実施後一定期間が経過している事業
- ④社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業

(添付ファイル 第8号様式)

## 平成30年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年 S 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
							用地費	進捗率				
林道事業	6	三和片川線	熊野市	③	<p><b>【全体事業概要】</b>            延長:32,260m            幅員:5.0m            利用区域面積:2,496ha            事業費:7,635百万円</p> <p><b>【事業目的】</b>            路網が未整備な熊野市紀和町南東部の広大な森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、布引の滝など森林や自然を活かした観光資源へのアクセス道路として地域振興を図ることを目的とする。</p>	S49	5,881	77.0%	延長:24,231m	<p>熊野市は、平成17年11月1日に熊野市と紀和町が合併しました。</p> <p>熊野市では、平成20年度に第1次総合計画を、平成30年度には第2次総合計画を樹立し、施策①「市民と共存する豊かな森づくり」、施策②「森を支える人と組織づくり」の2つの施策を掲げており、森林の適正管理、林道・作業道の路網整備や林業後継者の育成などに取り組んでいます。</p> <p>平成24年4月に広域合併した三重くまの森林組合が、地域林業の中核的担い手として、行政機関や関係業界などと一体となって、地域の森林整備と保全を進めています。</p> <p>林業作業については、プロセッサやグラブブル、フォワーダーなどの高性能機械が普及しつつあり、機械作業による造材や集材の効率化が進んでいます。</p>	<p><b>【費用対便益分析結果】</b>            B/C=1.01</p> <p><b>【コスト削減】</b>            波形線形の採用、用途に応じた幅員や路肩の縮減、またコンクリート擁壁に替えて補強土壁工を積極的に活用することで、土工量と法面保護工を減らすなどによりコスト削減を図る。</p> <p><b>【代替案の検討】</b>            当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があること、更には観光資源への集客や地域住民の迂回路として地域振興に資することから、当林道を開設する以外に代替案はない。</p>	<p>一層のコスト削減を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図り、計画的な予算配備に努めながら早期完成を目指し、事業を継続する。</p>
					S	5,881	77.0%					
					H39	-	-					

(添付ファイル 第8号様式)

## 平成30年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年 S 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
							用地費	進捗率				
林道事業	3	三峰局ヶ岳線	松阪市	③	<p>【全体事業概要】 延長:20,700m 幅員:4.0m 利用区域面積:2,464ha 事業費:5,179百万円</p> <p>【事業目的】 高見山地の南斜面に広がる広大な森林地帯の中央部を横断する基幹林道として、森林整備の促進を図るとともに、小流域ごとに分断している既設路網を接続し、ネットワーク化して利用区域内の森林施業の効率化を図ることを目的とします。 併せて、国道166号の災害時の迂回路や森林レクリエーションのアクセス路として位置付けています。</p>	H5	4,895	94.5%	延長:19,911m  松阪市では、平成28年度を始期とする総合計画を樹立し、「原木の安定供給(木材生産)」「森林の公益的機能(森林環境保全)」「地域材の需要拡大(地域材利用)」を3本柱として林道整備や間伐の促進、森林資源の活用に取り組むこととしています。 間伐等の森林整備について、森林組合が所有者に森林施業プランを提案して、施業地の集約化を図る「提案型集約化施業」の取り組みが行われています。	<p>【費用対便益分析結果】 B/C=1.64</p> <p>【コスト削減】 地形にあった波形線形の採用や、路肩の縮減により、土工量及び法面保護工を削減しコスト削減を図る。</p> <p>【代替案の検討】 当路線の利用区域内の森林整備を図るとともに、切り出した木材を効率よく運搬する必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。</p>	一層のコスト削減を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図り、計画的な予算配備に努めながら早期完成を目指し、事業を継続する。	
						S	4,895	94.5%				
						H35	—	—				

(添付ファイル 第8号様式)

## 平成30年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業進捗内容	事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し
						採択年	総事業費	進捗率				
							工事費	進捗率				
						目標年	用地費	進捗率				
都市公園事業	15	北勢中央公園	四日市市、いなべ市、菟野町	③	<p><b>【全体事業概要】</b>            全体面積 98.1ha            テニスコート16面、野球場1面            サブグラウンド1面            芝生広場6.7ha            水のプラザ0.9ha            駐車場4箇所            沢の森1.5ha            自然探検エリア            自然学習エリア            多目的広場2.5ha            園路2.2km            調整池3基            用地買収面積 98.1ha</p> <p><b>【全体事業費】</b>            17,285</p> <p><b>【事業目的】</b>            良好な自然環境の保全を図ると同時に、多様なレクリエーション活動、健康の増進、自然とのふれあいの場の提供を目的として整備を進めています。</p>	S58	16,539	96.0%	<p><b>【供用面積】</b>            平成5年度 12.2ha (テニスコート、野球場)            平成6年度 5.9ha (芝生広場)            平成9年度 1.7ha (水のプラザ、芝生広場)            平成20年度 12.6ha (北側園路、ウッドデッキ、東駐車場)            平成23年度 2.8ha (北駐車場、多目的広場)            平成25年度 1.5ha (沢の森)            平成28年度 1.3ha (北、東、西側園路)            平成29年度末計 38.0ha</p>	<p>北勢中央公園の誘致圏の人口は、事業着手時及び前々回再評価時までは増加傾向にありましたが、近年減少傾向に転じています。また、近年厳しい財政状況により公共施設等の効率的な運営が求められる中、北勢中央公園においても平成20年度から指定管理者制度を導入し、公園利用者へのサービスの向上及び維持管理経費のコスト削減を図っています。</p>	<p><b>【費用対便益分析】</b>            B/C=1.6</p> <p><b>【コスト削減】</b>            平成20年度から指定管理者制度を導入しています。トイレ・園路灯をLED化しました。これらの取組で維持管理運営面のコスト削減を図っております。</p> <p><b>【代替案】</b>            残事業である野球場のサブグラウンド、テニスコートの増設に対するニーズや、現在の事業進捗や用地取得の状況から判断しても、現計画が妥当であると判断します。</p>	<p>今後は野球場のサブグラウンド、テニスコートの増設等の整備を行い、平成32年度の完了を予定しています。</p>
						H32	8,541	96.0%				